

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設当初より、誰もが安心して地域と共に暮らせる事を理念の中心に置き、作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや会議等で周知徹底を図っている。また、見やすい所へ提示し、いつでも見て業務を遂行出来るようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム便りを毎月1回、家族や近隣へのパンフレットの配布の他、ホーム見学時には、見学者に説明し理解をもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所や地域の方々との毎日の挨拶はもちろんのこと、行事や慰問を行うときは内容により参加を呼びかけている。また、ショッピングや散策等行い、地域住民と交流が図られるようにしている。昨年より、地域の自治会への参加を依頼している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を職員全員で把握し、日々介護内容や介護計画の改善に向けて取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見について、職員全員と話をし取り組んで、サービス向上を図るようにしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で、なごみ新聞や予定歴または、外部評価の評価結果を市職員に渡し交流を図っている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修として、地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会を開き、仕組みについて理解を求めた。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修として、高齢者の虐待や身体拘束廃止等についての勉強会を開き、仕組みについて理解を求めた。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には十分に説明を行い、納得した上で契約している。入所後も面会時等家族と話をし意見を聞き、ある場合はきちんと説明をし納得してもらっている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居利用者と馴染みの職員や担当職員は何でも言える信頼関係を築けるよう日頃より接している。又、家族や面会者からの聞き取りにて、不満・苦情を察知し苦情処理会議を開き改善出来るよう情報を職員間で共有している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状態は家族面会時報告する様にし、内容によっては電話連絡をするときがある。金銭管理は、利用料支払い時に家族へ出納簿のコピー、レシートを渡している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族からの相談には、迅速に対応している。苦情に対して、苦情受付箱や苦情処理ノートがあり、苦情相談員が職員や管理者を含めた会議を開き情報共有する体制をとっている。また、内容によっては直接行政に相談するよう依頼している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝、夕の申し送り時やミーティング時に意見を聞いている。改善及び懸案事項が出た場合は会議を開き意見を聞くようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に合わせ、急変時でも充分対応が出来るようフリーの職員を置き、夜間や急な受診にも対応できる体制を作っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットの職員は固定するようにしているが、やむを得ない職員の異動や退職の場合は必ず引き継ぎし、また新人職員が来るときは、前もって利用者で紹介するなどしている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修には参加してもらい、研修内容の報告は報告書を作成し申し送り時またはミーティングを開き、全職員に浸透するようにしている。また、資格を取得することを勧めている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人間の事業所との交流や行事、勉強会等を通じての職員の能力向上を図る他、研修参加や同業他者の訪問等を支援する体制をとっている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から職員と会話をし、いつでも気軽に相談など出来るようにしている。また、年1～2回施設職員での親睦会を開催するようにしている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が資格を修得した時は、その資格を活かせる業務を提供し、向上心はもちろんのこと自らのレベルアップも図ることが出来るようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所契約前に必ず家族と本人に施設見学を勧めている。その際、家族や本人に心身状況や悩み事等を聞き、少しでも入居することへの抵抗感が薄れるよう努力している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時、本人、家族の思いや疑問等を確認し、本人に合ったサービスが出来るように紹介や援助をしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所相談時や契約時に施設としての要望、家族、本人からの要望を聞きお互い納得できるように努めている。また、家族・本人と相談しながら安心して暮らせるよう工夫しながら行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活で利用者と一緒に生活するために掃除や調理等教えてもらいながら、共同で行うようにしている。また、出来ることは担当してもらい役割を持ってもらうようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の利用者の状況を面会時報告する様にし、場合によっては、外出、外泊を勧めている。また、行事等内容により家族参加を依頼し共に利用者を支える関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者の関係の理解に努め、家族とよく話し合う。また、離れて暮らすことで両者の関係が途切れないように配慮、支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ、馴染みの病院や理髪店、ショッピングの時は行きつけのスーパー・デパート等行くようにしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係をきちんと把握し、出来るだけみんながコミュニケーションが図られるよう利用者の中に入り援助し、トラブルも未然に防ぐようにしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでに、同じ系列の事業所へ退所した方は、後日、仲の良い利用者と一緒に遊びに行ったり見舞いにいたりし、関係を切らないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者一人一人の生活習慣や希望を崩すことのないように職員間の連絡、報告を密にし、日々の生活を見守り、支援できるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所相談時に家族や本人から生活歴を聞き取り、センター方式に活用している。その情報を元に介護計画を作成している。また、入所後も本人と話をし把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の状態変化をとらえるよう日頃から観察し、変化があった時は職員間の報告・連絡を密にし、家族や関係機関への連絡等をしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に本人や家族に意見や要望を聞き、計画に取り組むようにしている。担当職員をはじめとした、多数の職員で会議を開き、みんなの意見をまとめながら介護計画の作成に活かしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前や期間途中でも、状態変化が見られた場合は直ちに会議を開き、状態に応じた介護計画を作成するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中気づいたことやケアの様子はカルテに詳しく記入するようにし職員全体に浸透するようにしている。また、経過記録を介護計画作成時に活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人からの急な外泊や外出又は、散歩や買い物に対して、利用者の要望に出来るだけ応える様に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防や民生委員は定期的に訓練や会議等行っているため交流が図られている。地域の文化的催事への見学、教育施設の行事参加等実施している。また、近所に交番があり時々巡回に来るので安心して暮らすことが出来る。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2か月毎に市立図書館に利用者と一緒に選書に行っている。また、利用者の希望があれば日帰り旅行に行くことがある。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、平川市の地域包括支援センターとは、交流や指導等の協働は出来ていない。	○	今後、様々な面で地域包括支援センターの協力が必要と思われるため、交流を図るためにも会議等の交流できる場に参加したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>前回の外部評価で、重要事項説明書に終末期の方針を記載すると良いと言われたが、まだ検討中の為、実施していない。</p>
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>初めての場所でも生活習慣が損なわれないように、介護計画、日中の状態等、詳しく伝えるようにしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人を年長者として、尊厳を尊重した言葉と態度で常に笑顔と穏やかな口調で接するようにしている。</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>コミュニケーションが困難な利用者には、筆談や表情を観察したりと本人に出来るだけ決めてもらう機会を提供している。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人一人の生活習慣を出来るだけ守るようにし、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出や外泊前には整髪やおしゃれをし、準備をしている。理容・美容は契約時にあらかじめ家族や本人に確認をし、行くようにしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、職員が利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。また、出来る人は職員と一緒に配膳・下膳を行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の殆どが、病気を抱えており薬を服用しているためお酒は飲んでいない。その他の飲み物やおやつは時間を決めて毎日替わりで楽しめるようにしている。現在、喫煙者はいないが安全に楽しめる体制を用意している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限り、トイレで気持ちよくしてもらう為、本人の排泄パターンの把握や必要なときはチェック表を付けるなど不快感を与えないよう援助、誘導している。安易なおむつの使用を避け、布の下着を着用させるよう努力している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本の日時は決めているが、本人からの希望時にはいつでも入浴出来る体制を整えている。また、浴室にバラや菖蒲、りんご、よもぎ等浮かべ季節にあったお風呂を楽しんでもらうよう工夫している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の活動時間や睡眠パターンを把握し、日中のリハビリやレクリエーション、軽作業等行い生活リズムを安定させ出来るだけ安眠できるよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日中の掃除や趣味活動(園芸、小動物の世話、裁縫)、本人の能力や希望に合わせて依頼をし、楽しみごととして支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	入居者の力量に応じて、小遣い程度から高額な管理が出来る人までおり、買い物の時は、自分で支払いをしてもらうように支援している。		
58	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	希望時に限らず、天気の良い日は声掛けし散策、ショッピング、ドライブの参加を募っている。		
59	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	日帰り温泉旅行や郷土館など希望時やドライブ計画を立て行くようにしている。また、内容により家族参加も募っている。		
60	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	いつでも電話が出来るように公衆電話を設置しており、電話が掛けられない利用者には、話だけ出来るように職員が援助している。また、折々に手紙を出している。		
61	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	基本的な面会時間は設定しているが、家族の好きな時間での面会が出来るよう、職員は気軽に声掛けし、訪問しやすい雰囲気を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	職員には入職時の他、施設内の勉強会等を開き、日々の拘束廃止を伝え、行動制限や拘束に代わる介護法を示し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員がホールに居るときは施錠せず対応しているが、建物の構造上、入居者の心身状況上、また、玄関から出ると階段があり転落等の危険防止上、職員が席を外す時は施錠をしている。家族や訪問者には理解を得ている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常にプライバシーに配慮しながら、利用者一人一人の居場所や状態を把握するように心掛け、見守りし易い場所におり自室にいる利用者は訪室し様子を見るようにしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物（刃物、洗剤、薬品類）は、利用者全員から全て回収せず、状態に合わせ居室に置くようにし、介護者も注意見守りしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の状態を把握し、事故の危険性が高い利用者には、本人の状態に合った事故防止策を検討し出来るだけ環境が変わらないような計画を立てている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個々の緊急事態に対する対応マニュアルや、連絡網があり職員全員が救急救命講習を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自然災害に対し、迅速に避難出来るよう定期的に訓練を実施している。また、災害時は近所の住民にも協力を得られるようにしている。また、緊急時の飲料水確保の為にタンクも各階常備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面会時、最近の近況を含めて説明しました、面会が困難な家族へは連絡するなどし、本人の状態が分かるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の状態に変化があった時や受診結果等、看護・介護職員全体に報告し家族へも都度連絡を入れ対応を相談している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指示や薬局の薬剤情報などをもらい、薬の目的や用法、用量等を職員全員が閲覧し正しく服薬出来るようにしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘により繊維のある野菜や果物を食材として多く使い、水分補給をまめにし、運動や体操を行っている。また、排泄チェック表でも観察している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	噛む力を付けるため、おやつも固い物や柔らかい物を取り混ぜ、食後のうがいや歯磨き、義歯洗浄を声掛けしたり、出来ない人は援助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日毎食の利用者全員の食事量や水分量をチェックし職員全員が把握できるようにしている。また、食事量、水分量が少ない利用者には栄養がとれるよう本人の好むおかずや補助食品等で確保するよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関しては医師の指示や、対策マニュアルに準じて行っている。インフルエンザの予防接種は、入居者及び家族から希望を取り実施している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染症予防のため、調理器具を消毒し確認印を押すようにしている。また、利用者が持っている食品は定期的に消費期限を確認し、切れている物は利用者に了解をもらい処分するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には観葉植物や絵画を置き明るい雰囲気を出すようにしている。また、利用者の作品を展示して家族が面会時閲覧できるようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室や共同空間などの表示も、利用者と一緒に作成しており、分かりやすいように工夫している。台所やリビングは家庭的雰囲気を大切に、利用者や家族が気軽に使えるようにしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、入居者専用のテーブルや椅子の他に、自由に使えるソファやテレビ、廊下の端に椅子を設置し利用してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	出来るだけ、日頃使い親しんだ物を持ってきて もらい、自宅の環境に近づけて生活できるよ うにしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	24時間換気システムを設置しているが、出来 るだけ自然な空気を取り入れる為、毎日数回窓を開 け換気している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者にも掃除や食器拭き、ゴミ捨て等手 伝ってもらい、趣味やレクリエーションなど一人一人 が役割や楽しみを持ち、本人らしさを発揮できるよ うに、見守り援助している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	利用者が失敗をしても出来るだけ混乱しな いように状態に合わせ環境を整備したり、援助してい る。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	建物の周りには植木があり、いつでも見 学できるようにしている。また、プランターに花や野菜 を植えており収穫した野菜を調理で使用する等、利 用者が楽しめるようにしている。併設の施設設備 なども気軽に利用してもらっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設では、地域資源（娯楽施設や図書館、デパート等）の活用の他、ねぶた鑑賞や近所の保育園児によるお山参詣鑑賞など出来るだけ地域交流を図り、積極的に伝統行事に関わるようにしている。